

ブイゲットバイソンEV粒剤

[チアクロプリド・チアジニル・ペンフルフェン粒剤]

農林水産省登録	第24720号
有効成分	チアクロプリド・・・1.0% チアジニル・・・12.0% ペンフルフェン・・・2.0%
性状	類白色～淡褐色 細粒

安全性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称） 危険物：- 有効年限：3年 包装：1kg×12
RACコード：殺虫[4A]殺菌[P3][7]

特長

- 育苗箱処理により、いもち病、紋枯病、水稻初期害虫（イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ）を同時防除できます。
- 緑化期～移植当日処理、移植時の側条施用、高密度は種など、幅広い使用場面で施薬可能です。

効果、薬害等に関する注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機で移植する。
- 稲の葉が濡れている場合には、散布前に葉に付いている露を払い落としてから薬剤を散布する。
- 側条施用する場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用する。
- 軟弱徒長苗、むれ苗又は苗の生育が不良な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意する。
- 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整する。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意する。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン長袖の作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。

水産動植物に対する注意事項

- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しない。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しない。
- 使用後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意する。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意する。

適用内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアクロプリドを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲（箱育苗）	いもち病 紋枯病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5ℓ) 1箱 当り50g	緑化期～ 移植当日	1回	本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する。	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	1回
		高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5ℓ) 1箱 当り50～100g)	移植当日					
稲	いもち病	1kg/10a	移植時		側条施用		3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	

製品写真



最新の登録内容はこちら

